

平成28年度 学校評価

江津市立江東中学校

評価期間:平成28年4月1日～12月31日

評価基準 A 十分達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった D 全く達成できなかった

| 評価項目 | 領域 | 中期目標 | 短期目標 | 担当 | 具体的な取組 | ○評価の観点 ●評価の指標 | 教職員評 | 達成状況 | 改善策と今後の方針 | 学校評価委員 | | | | |
|---------------------------|--|---|---|----------------------------------|---|---|--|--|---|---|---|---|---|--|
| | | | | | | | | | | 評価 | 所見 | | | |
| 学習指導 | 確かな学力の育成 | 確かな学力の育成を図り、進路保障・学力保障の充実に努める | 基礎的・基本的な学力育成の手だてを具体化する | 研究 | ・全国県学力調査を生かした具体的なアクションプランにより授業改善を行う。 | ○アクションプランに沿った具体的な取組(授業改善)を行ったか。 ●研究授業、公開授業でアクションプランに沿った授業を公開した。 | B | 校内研究授業では、アクションプランに視点が盛り込まれた授業が公開された。 | 共通フォルダーに、各自が自分の授業の参考にしたい事柄について入力し、共通理解を図る。 | A | | | | |
| | | | | | ・授業における課題・めあての確認、まとめと振り返り、思考スキルの充実を図る | ○授業において課題・めあての確認と振り返りを行ったか。 ●校内研究授業を全員が行った。授業公開週間を実施した。 | B | 研究授業は全員行うことができた。授業公開週間への取組は十分でなかった。 | ・週案のチェック時に学年部で見合うことができるように時間割調整を行う。 ・学年に限らず、空き時間の職員が努めて見に行く。 | B | | | | |
| | | | | | ・一人1回研究授業、授業研究会を持ち、各自が工夫、改善を行う。 | ○授業研究会を持ち、課題・めあての確認と振り返り、思考の場面について改善を図れたか。 ●授業研究会で、めあてとまとめ、振り返り、思考の場面について協議をもった。 | B | めあての確認は定着していると思う。振り返りについて工夫が必要だと思う。 | ・ノートや振り返りシートに書かせる、口頭で発表させる等の実践をする。 ・授業の時間配分を工夫する。 | B | | | | |
| | | | 家庭学習の充実を図る | 研究 | ・授業と関連を持たせた課題を出す。 ・自主学習ノートコンテストを行い、内容の充実を図る。 | ○生徒に予習・授業・復習というサイクルが身についているか。 ●生徒アンケートで肯定が80%以上 | C | 予習をしている生徒が少ない。生徒アンケート86% | ・自主学習ノートコンテストの内容を予習にして行なう。 ・宿題として、予習課題を出すようにする。 | B | 宿題における予習の割合はどうか。授業と宿題のサイクルを作ることが大切でないのか。 | B | | |
| | | | 表現力の育成を図る | | ○学期に1回以上コンテストを行ったか。 ●コンテストを実施した。 | A | 1学期には行えなかったが、2学期に2度行うことができた。 | 評価の在り方などの改善をしながら、より生徒が意欲を持って取り組めるコンテストにする。 | A | | | | | |
| | | | ・各教科で基礎・基本の活用を図る言語活動を充実させる。 ・夏期/冬期学習会において、表現力の育成を図る取組を行う。 ・体験学習後、感想を書かせる。 | | ○単元計画に言語活動を組み入れて実施したか。 ●教職員アンケートで肯定が80% | A | 概ね達成されている。教職員アンケート87.7% | よりよい言語活動や学校図書館を活用した活動へと内容を充実させる。 | A | | | | | |
| | | | アクティブ・ラーニングの推進を図る | 研究 | ・体験学習後、感想を書かせる。 | ○学習会において、思考力・表現力の育成を図る取組を行ったか。 ●各学年2回以上実施した。 | B | 夏期、冬期の学習会において、数学の活用問題を取り上げて実施できた。 | 他の教科へ広げたい。 | A | | | | |
| | | | 学校図書館の活用を図る | | ○感想文を書くことは表現力を育成するのに役立ったか。 ●生徒の感想文による。 | A | 実施できた。回を重ねる度に文章の量・質ともに深まった。 | 互いの感想をフィードバックすることで、より内容の充実を図る。 | A | | | | | |
| | | | ・アクティブラーニングの視点を取り入れて授業を行う。 | | ○授業において、生徒が主体的に学習に取り組む場面を設定しているか。 ●生徒、教職員アンケートで肯定8 | A | 概ね達成されている。教職員アンケート83.3% 生徒アンケート76% | ・生徒が協働し、深い学びになるようにさらに研修と実践を重ねる。 ・先進校視察を行う。 | A | | | | | |
| | | | ふるさと教育 | ふるさととの「ひと・もの・こと」を生かした教育活動を工夫する | 教育コミュニティ創造ふるさと学習支援事業を確実に実施する | 加藤 | ・調べ学習や言語活動に学校図書館を活用し、司書教諭と連携を図る。 | ○各教科で年1回以上、学校図書館を利用したか。 | C | 図書館は学習に活用されていない。 | ・授業に必要な資料を司書教諭に相談してみる。 ・年間指導計画の中に入れ込む。 | C | ・生徒数が少ないという理由で常駐の司書がいらないのはおかしい。市教委に予算化の働きかけをして、不公平を是正してほしい。 ・読書は大切。本を読む習慣を | |
| | | | | | | | ・表現KSTを通して、地域講師との交流を図る。 | ○自己課題を持たせ、講師との交流を通して課題解決を図らせることができたか。 ●生徒の振り返り、感想文による | A | 生徒アンケート97% 地域の方とふれあい、意欲的に学ぶことが出来たと感じている。 | ・個人カードの見直しと職員の共通理解を図る。 | A | ・短い期間であったが、取組に前向きな姿勢が感じられた。学習につながるとうい。 ・礼状が非常に丁寧に書いてあった。 | |
| | | | | | | | ・キャリア教育講演会を実施する。 | ○講演会を通じて、勤労観・職業観を広げることができたか。 ●生徒アンケートで肯定が80%以上 | A | ・バイマーヤンジン氏の講演会では、逆境に負けず、夢を追い続け、夢を叶えた実話に多くの生徒が感銘を受けた。 ・近藤卓氏の講演会では、自分を大切にすることや人との良好な関係の築き方に多くの示唆を得た感想が多くあった。 | ・講師選定が重要である。生徒のところに届く講演会を引き続き行う。 | A | | |
| ・「自尊感情の育成」をめざし、ヨガ教室を実施する。 | ○ヨガ教室を通して自己肯定感を高めることができたか。 ●生徒アンケート肯定的評価80% | B | | | | | ヨガの実技より、自己肯定感の理解と人間関係構築をねらいとしたワークショップを中心に行った。 | ・ヨガを苦手としている生徒もいることが課題。 ・継続については、再考する。 | B | | | | | |
| 豊かな心や感性の育成を図る | 豊かな心や感性の育成を図る | 豊かな情操を培う環境づくりに努める(自然環境・読み聞かせ)体験活動を通して、培うべき感覚・資質を育てる | 教務 | ・海岸清掃等による地域貢献を行う。 | ○海岸清掃を通して、地域の自然を愛し、地域に貢献する気持ちが育まれたか。 ●生徒による「振り返り」から。 | B | 地域の方が、自然を守るために努力してこられたことを知り、自分たちの地域を自分たちの手できれいにしていこうという意識が高まった。 | ・年1回の活動で終わらせず、冬季には地域と方と共にボランティア活動に発展させたい。 | A | | | | | |
| | | | | ・行事ごとにねらいを明確にし、職員でふりかえり、改善していく。 | ○ねらいを明確にした行事を行い、ふりかえりにより改善を図ることができたか。 | B | 教職員評価78% 行事によって、ふりかえりを行うものを行わないものがあった。 | ・形式を統一する、PCへの記入式にする等、徹底する。 | B | | | | | |
| | | | | ・清掃活動を徹底する。 ・黒松海岸掃除に積極的に参加する。 | ○清掃活動の徹底により落ち着いた環境づくりができたか。 | A | 清掃班を縦割りにした新システムを導入した。結果、3年生のリーダーシップにより、清掃活動が徹底し、環境美化につながった。 | ・縦割り班を続ける。 ・学期毎という担当場所の固定化が有効であった。 | A | | | | | |
| | | | 下垣 | ・俳句、短歌づくりを行う。 ・弁論文作成と発表活動を行う。 | ○作品を仕上げ、お互いの作品を鑑賞することができたか。 ●生徒の「振り返り」による。 | A | ・短歌づくりでは、作品を展示し、コンテストを行った。 ・弁論は、学級弁論大会、校内弁論大会、文化祭と発表の場を多く設けた。 | ・小学校へ弁論を発表する機会があり、好評であった。 ・もっと多くの地域の方にも、聞いていただく場があるとよい。 | A | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|---------------------------|-----------------|-----------------------------|---------------------------|---|---|---|---|--|---|--|---|--|
| 生徒指導・進路指導 | 豊かな人間性・社会性 | 人権・同和教育の推進 | 安心して生活・学習できる居場所としての集団づくりを行う | 生徒指導 | ・教育相談を学期ごとに行い、生徒理解に努める。 ・SCを活用した人間関係づくりの授業を行う。 | ○人権アンケートやアンケートQ-Uの回答から、気になる生徒を把握するなど、いじめ防止に取り組むことができたか。 ●教職員アンケート、肯定的評価80%以上 | A | 人権アンケートやQ-Uの結果を把握し、教育相談を行った。 教職員評価86% | 人権アンケートやQ-Uの結果について、担任だけでなく、多くの教職員で内容を把握し、問題点を検討する場の設定が必要である。 | A | | | |
| | | | | 三浦 | ・小学校との情報共有を図り、共通した目指す児童生徒像をもつ。 | ○共通のねらいをもち、小中合同人権集会を開催したか。 | A | 各学年でSCによる授業を行った。 教職員評価98% | SCによる授業を複数回、実施できるようにSC活用の年間計画を組み立てる。 | A | | | |
| | | | 職員研修を通して、人権・同和教育への資質の向上を図る | 三浦 | ・小中合同人権・同和教育研修会を通して、資質向上に努める。 ・健康教室・竹細工教室に参加する。 | ○小中合同人権・同和教育研修会を開催したか。 ○健康教室、竹細工教室に参加したか。 | B | ・講師と事前打ち合わせをし、充実した研修を行うことができた。 ・校長と推進者は参加できたが、他の教職員が参加できなかった。 | ・講師の選定等を考慮して、充実した研修ができるようにする。 ・多くの教員が参加しやすい、体制づくりに努める。 | B | | | |
| | | | 保護者や地域への啓発に努める | 三浦 | ・小中合同人権集会、校内人権集会への案内をし、生徒とともに人権に関心をもち、意識を高める。 | ○小中合同人権集会、校内人権集会の案内をし、啓発に努めたか。 | B | 保護者案内を配布したが、参加者は少なかった。 | ・PTA役員等に働きかけ、保護者の参加が増やしてもらえるような工夫をする。 ・機関誌等を発行し、日頃から関心を高める。 | B | ・保護者間のPR活動や動員をかける必要がある。 ・人権意識を身につけさせるには、小中は大切な時期なので、保護者にきちんと啓発をするべきである。よって、講演会の開催時間を保護者の参加しやすい夜とかにしているかどうか。 | | |
| | | 自尊感情の育成を図る | 生徒指導 | 視点を定め、自己・他者評価を通して自尊感情を高める | ・行事や活動計画のねらいに自尊感情の視点を盛り込む。 | ○行事、活動計画のねらいに自尊感情育成の視点を設ける。 ●教職員アンケート、肯定的評価80%以上 | A | 自尊感情の視点を意識したねらいをたてることができた。 教職員評価95% | 生徒の実態をきちんと把握し、ねらいを設定したい。 | A | | | |
| | | | | | ・縦割り班による清掃活動を実施する。 | ○責任を持って清掃活動に取り組んでいたか。 ●生徒アンケート肯定的評価80%以上 | A | 縦割りの班による清掃活動は、3年生のリーダーシップもあり、大変熱心に清掃を行っていた。 | 来年度も縦割り班で実施する予定である。 | A | | | |
| | | 特別支援教育 | 特別支援教育 | 特別支援教育の推進を図る | 職員研修を通じて特別支援教育への理解を深め、効果的な支援を行う。専門機関、市教委や保護者等との連携を図る。 | 段 | ・専門機関と連携し、職員研修を行う。 ・校内委員会を活用し、効果的な支援の在り方を検証する。 | ○職員研修を行ったか。 ○校内委員会は、効果的な支援に役立ったか。 | A | 市教委の指導主事や通級指導教諭による校内研修を行い、特別支援教育への理解を深めるとともに個別支援への具体的方策を得ることができた。 | ・来年度特別支援学級新設に向けて、関係機関とさらに連携を深める。 | A | |
| | | | | | | | ・コーディネーターと生徒指導主事が調整しながら、関係機関との連携に努める。 | ○関係機関と連携することで特別支援教育の推進が図れたか。 | A | 市教委からのバックアップもあり、連携がスムーズにできた。 | ・来年度特別支援学級新設に向けて、関係機関とさらに連携を深める。 | A | |
| | | 組織運営・保護者や地域との連携 | 信頼される開かれた学校づくり | 学校機能の充実を図る | 校務分掌における責任を明確にし、組織的な協働体制を確立。教職員の学校経営参画意識を高める | 教頭 | ・企画会、分掌部会、学年部会を定期的(月に1回)に開催し、情報の共有化を図る。 ・学校経営の重点と自己目標の連動を図る。 | ○部会の定期開催により、共通理解が図られ、協働体制を確立できたか。 ○自己目標を達成し、学校経営に貢献できたか。 ●教職員アンケート、肯定的評価80%以上 | B | 生徒指導部においては、学期毎に指導上の重点目標を決めるなど、組織体制が整えられたが、定期開催できない部会 教職員評価68% 年度当初の目標設定があいまいだった。 | ・ミドルリーダーを中心に、役割分担を明確にし、組織的に取り組む体制づくりをする。 ・当初面接で、自己目標との連動を自ら説明する時間を設け、中途面接でその達成状況を確認、修正していく。 | B | |
| | | | | | 教育活動に資する内外の環境を整備、活用する | 教頭 | ・環境整備、環境美化活動を行う。 ・教育備品の充実と点検を行う。 | ○PTA親子環境整備活動を実施したか(年2回)。 ○職員作業日を設け、備品点検を行ったか。 | A | ・PTA環境厚生部の献身的な整備活動に助けられ、親子活動を短時間で行うことが出来た。 ・保護者の協力もあり、不要物の大量廃棄が行われ、スペースの有効利用が可能となった。 | ・PTAの細則変更により、環境厚生部の人数を増やす。 ・引き続き、倉庫内の整備を行う。 | A | |
| 家庭・地域・関係団体との連携を図る | 開かれた学校として、説明責任を果たし、連携を深める | | | 教頭 | ・学年通信、学校だより、保健だよりを発行する。 | ○学校からの情報発信は、十分であったか。 ●保護者アンケート、肯定的評価80% | B | 保護者アンケート84% 学年部内での役割分担により、定期的な発行ができた。 | ・内容を充実する。 | A | 地域コミュニティの会合に、PTA役員が参加し、学校の近況について説明しているの、学校の様子がよく分かる。 | | |
| | 小中連携を多角的・多面的に推進する | | | 教頭 | ・小中連携の在り方について、管理職部会を開いて検討する。 ・小中合同で行う活動のねらいを明確にする。 | ○小中連携の意義が、教職員に浸透し、連携が深まったか。 ●教職員アンケート記述から。 | B | 小中合同で行う行事に対して、学校間に温度差があった。 | ・職員へのアンケートによる聞き取りを行う。 ・活動毎に担当者を明確にし、打合せ等を十分に行う。 | B | | | |
| | 保護者や地域等の学校教育への意識を高める | | | 教頭 | ・自尊感情の醸成についての講演会を開催する。 | ○学校経営の重点(自尊感情の醸成)の共通理解が図られたか。 ●講演会への保護者参加率75% | B | 講演会が土曜日(参観日)開催にもかかわらず、保護者の参加が50%以下だった。 | ・保護者への意識調査を行う。 ・開催日程、曜日の検討を行う。 | B | | | |